

奈良時代の典型的大規模寺院跡

備前国分寺跡



指定区分	国指定史跡
読みかた	びぜんこくぶんじあと
所在地	赤磐市馬屋
指定年月日	昭和50年7月19日
解説	<p>発掘調査により、南門・中門・金堂・講堂・僧房が一直線に、塔は金堂の南東に配置されていることが確認された。寺域は東西約180m、南北約200mと推定されている。聖武天皇による国分寺・国分尼寺建立の詔勅により、奈良時代後半に建立された。講堂・回廊は平安時代末に火災で焼失し、講堂は鎌倉時代以降に再建され、南門とともに16世紀後半まで存続していたと考えられる。塔跡には塔心礎が一つ残っており、その上には鎌倉時代に建造されたと思われる約3メートルの石塔が建っている。</p>
アクセス方法	宇野バス:「新道穂崎下」停留所から徒歩10分
公開状況	自由
設備	
備考	出土品は、赤磐市山陽郷土資料館にて展示されています。

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	備前国分寺跡
よみかた	びぜんこくぶんじあと
しよざいち (所在地)	赤磐市馬屋
していたひ (指定した日)	昭和50年7月19日
せつめい	発掘調査(はくつ)により、奈良県(ならけん)の東大寺(とうだいじ)と同じような配置(はいち)の建物(たても)があったことが分かりました。平安時代(へいあんじだい)のおわりに建物の一部(いちぶ)が火事(かじ)で焼(や)けましたが、その後(ご)も建(た)て直(なお)しながら、安土桃山時代(あづちももやまじだい)のころまで、お寺であったと考(かんが)えられています。